

『「心のバリアフリー」推進隊ミーティング』

記念すべき

“第1回”

の開催です♪



と き	令和5年2月23日(木) 9:30~11:00
と ころ	福島市アクティブシニアセンターA O Z 視聴覚室
テ ー マ	その1:「推進隊」活動で感じたこと その2:これからの取り組みについて その3:広報紙「ここフリ」やPR方法について その4:今後の活動への想い
メンバー	「心のバリアフリー」推進隊の4名 



おおひら ともあき
大平 知章さん

福島学院大学
福祉心理学科 2年



ほしい ももこさん
星井 ももこさん

福島学院大学
福祉心理学科 2年



さいとう はるか
齊藤 遥さん

桜の聖母短期大学
キャリア教養学科1年



とね あやか
刀根 彩華さん

桜の聖母短期大学
キャリア教養学科1年

(※学年の表記は開催日時点のものです。)

その1. 「推進隊」活動で感じたこと

大平
さん

10月の強化月間でいろいろなイベントに出向き、活動をしたことで、自分から動いてみないと知るこのできないことがいっぱいあったなと思います。

「推進隊」は広める立場ではありますが、一番は自分の中の「心のバリアフリー」に対する興味・関心が広がったのを感じました。行動することが自分自身のためになる活動だなと感じたし、みんなにも参加してもらうことで「心のバリアフリー」への関心をもっと広がる気がしました。



星井
さん 実際に活動に参加してみると、関心をもってくれる団体が
多く、お互いに活動を紹介しあったり、「一緒に頑張ろう」と
励ましの言葉をもらったり、市民の方や障がいをもつ当事者の
方からも声をかけてもらえたりと、つながりが広がるのを感じ
ました。



「心のバリアフリー」について、“全然知られていない・全然興味がない”というわけ
ではないんだなということがわかって、知るきっかけがあれば、もっともっと広まる
し、みんなで「心のバリアフリー」を作り上げていけるのではないかなと思いました。



齊藤
さん 強化月間には、駅前での活動にも参加しました。普段、電車を利用して通学していま
すが、駅前でのさまざまなイベントや活動が増えたことで、以前より、電車の利用者も、
駅前の賑わいも増えたように感じました。

これからさらに、パセオ通りなど駅から少し離れたところへも賑わいを広げることがで
ければ、「推進隊」としての活動の場や「心のバリアフリー」PRの場も広げられるの
ではないかと思いました。

刀根
さん 「推進隊」での活動をきっかけに、歩道の点字ブロックを
気にかけるようになったり、YouTubeなどで配信されている
「バリアフリー」関連の動画を見たりなど、普段の生活の
中でも「バリアフリー」を意識するようになりました。



YouTubeで、目が見えない女の子が福島駅を歩く動画を見て、
福島市は「バリアフリー」が多いまちだと知り、実際に確認したいと思いました。

その2. これからの取り組みについて

大平
さん 強化月間の活動で知り合った団体について、とても興味をもったので、自分なりに調べ
たところ、ボランティアを募集していました。「推進隊」の活動としてボランティアに
参加することで、企業・団体側へも貢献できるし、こちらも「心のバリアフリー」につ
いて、利用されている方も含めてPRできるので、プラスの効果で「心の
バリアフリー」の認知を広めることができるのではないかなと思いました。
これまでは新型コロナウイルスの影響で活動にも難しさがあったと思いますが、だんだんと状況が変わってきているので、今後は企業・団体と連携した
取り組みをしてみたいです。



星井さん 10月の活動を通して、多くの方から協力が得られそうだなと感じているため、企業・団体を訪問し、「心のバリアフリー」についてPRしたり、少しでも取り組んでいただけたらいいなと希望しています。今後出来るだけ「推進隊」の活動を続けていきたいのですが、4人だと日程の都合によっては少人数となり、負担が大きくなってしまいうため、学校ごとに有志を募るなど、負担を分散させることで、活動が続けやすいのではないかなと思います。



刀根さん 「推進隊」の人数について、それぞれの事情も尊重しながら活動をするためには、多いほうがよいと思います。大学の授業の中で、「バリアフリー」の紹介をしてもよいと言われているので、新しく入ってくる1年生に向けてPRし、興味のある学生には「推進隊」に参加してもらおうきっかけになると思うので、学内での紹介をしてみたいなと思っています。

齊藤さん 人数については、学校の規模にもよりますが、学校毎に4, 5人はいるとよいなと思います。「バリアフリー」は馴染みがありますが、「心のバリアフリー」という単語自体がまだ新しく、関心度は高いと感じてはいるものの、認知度が低いように思います。企業における認知は進んでいると思いますが、一般の方の認知度はまだ低いと思うので、一日がかりの大きなイベントというよりは、顔出し・あいさつ程度の小さな活動をもっと増やしていけたら、最低限の認知度まで引き上げられるのではないかなと思います。



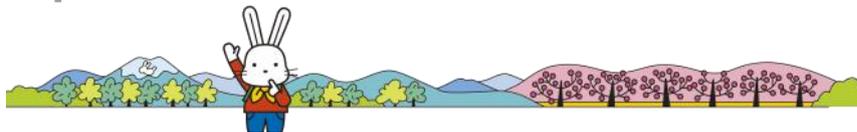
その3. 広報紙「ココフリ」やPR方法について

齊藤さん 「ココフリ」のデザインについては、写真やイラストを多くすることで、よりわかりやすくなると思います。サイズは、活用しやすさを考えると、現在のA4両面刷りでいいと思います。裏面の『知る？知る！「心のバリアフリー」』のコーナーは、基礎的な知識について確認できるので、すごくありがたいなと感じました。途中から「ココフリ」を読む方もいると思うので基礎的な内容は、ある程度の期間で繰り返し掲載していくのではないかなと思いました。



刀根 個人的には、「ココフリ」の配色やコマ割りはすごく好きです。
さん 裏面は、黒色の使用が多めのため、文字の量が多いと感じる方もいるかもしれません。

例えば、“バリア”の部分に赤い色を使用したり、色のもつイメージの力を借りるなどの工夫をすると、もっと見やすくなるのではないかなと思いました。



星井 配色については、大学の授業で、色覚多様性に配慮した文書作成
さん を学ぶ機会があり、私たちからバリアのないものを作っていけたらよいなと思いました。基礎的知識のコーナーについては、例えば4つのバリアについて一度に掲載するのではなく、1つずつに分けて掲載するなど、情報量を意識することで、わかりやすくなると感じました。

大学の学友会の会報に掲載する記事を、月に1回ほど作成していますが、「こんなに少なくていいの？」と思うくらいの内容にしないと、わかりにくいし、見てもらえないと感じています。

情報や文字の量が多いと、ぱっと見て「なんだか長いな、読むの嫌だな」という印象を与えてしまうので、量を減らすと共に、詳しく見たい方向けには、いつでもHP等で見られるように、紙面にQRコードを掲載するのがよいと思います。



大平 PR方法については、駅や街なかへのポスター掲示はどうか
さん と思いました。通学の際に駅を利用していますが、大きくて印象的なデザインのポスターは、自然に目を引き、見入ってしまいます。

色覚多様性については、大学の授業で学ぶまで知らなかったもので、「こんな障がいもあるんだ！」とすごく驚きがありました。日常の中に、そういう障がいを抱えている人がいるということも、「ココフリ」で紹介できるのではないかなと思いました。

星井 「心のバリアを受けやすい障がい」について、広く知っていただくことで、偏見や無関心をなくしていくことができるので、「ココフリ」に取り入れていくのはよい考えだと思いました。

目を引くデザインという点では、「ももりん」を取り入れることができます。市民に親しまれているし、可愛いので、「なんだろう？」と気になる方も多いと思います。先ほどの大平さんの提案にあったポスターについても、「ももりん」を取り入れることで目を引き付けることができるかなと思います。



その4. 今後の活動への想い

大平さん 今年度「推進隊」として4人一緒に活動できる機会が少なかったので、学校同士のつながりを深めて、「隊」として、みんなでの活動がきるといいのかなと思います。

活動全体を通して、「心のバリアフリー」について自分自身が一番関心を持つことができた実感から、興味があれば、学年を問わず、ぜひみんなに参加してもらいたいです。

「推進隊」の一期目ということで、反省点はいろいろありますが、今後この経験を活かしてよい活動ができればいいなと思います。



星井さん 「推進隊」として活動する中で、一番は自分自身の「心のバリアフリー」に対する興味・関心につながったし、もっといろんな人に知ってもらいたいなという想いが芽生えました。より多くの学生に参加してもらい、学校同士で、今回のようなミーティングの場を作れたらいいなと考えています。人数が増えることで、話し合いもより盛り上がるし、議論も深まるので、今後実現できるといいなと思います。

何よりも、イベントへ参加してみて“楽しかった”という想いがあるので、今後も活動を続けていきたいです。



刀根さん 今年度の活動を通して、「心のバリアフリー」については、知るきっかけがあれば、興味を持ってくださる方も多いのではないかなと感じています。どのような工夫をしたら、より多くの方に興味をもってもらえるのか、引き続き「推進隊」のみんなと一緒に考えていけるといいなと思います。

私自身は、春から就職活動等も始まるため、これまでよりも忙しくなると思うのですが、スケジュールを調整しながら、できるだけ積極的に活動に参加していきたいなと思っています。

齊藤さん これまで「福島市」は田舎のイメージで、正直あまり好きではありませんでしたが、「推進隊」の活動や、大学での学びを通して、市民の活動がすごく進んでいるまちだということを知り、“いいところもあるな”と思えました。

「心のバリアフリー」は、「福島市」の魅力にもつながると思います。ほかの方々にも「福島市」の“いいところ”を知ってもらい、“地元愛”のようなものを感じてもらえるように、これからも「推進隊」の活動を続けていきたいです。

